

令和 6 年 3 月 1 3 日

令和 5 年度掛川市高校生チャレンジ公募事業委託

「商店街の空き店舗を高校生の居場所に」（継続）

事業成果報告および提案書

【はじめに】

全国規模で駅前の商店街の空洞化が叫ばれて久しく、掛川城の城下、旧東海道沿いに商店街を形成している中町商店街・連尺商店街にもシャッターが目立つようになった。この「シャッター街の一角に高校生が集うスペースを確保できれば？」そんな発想から、文芸部の生徒が部活動の一環として、まずは商店街に関わる人から話を聞き、理想の居場所イメージを作り上げたのが昨年の活動であった。（昨年度「事業成果報告および提案書」参照）

本年度は、昨年度の成果を踏まえながら具体的な場所を設定し、その場所をどう活用していくか？をテーマとしながら 5 月に企画書を提出、8 月初旬に掛川市都市政策課との打ち合わせや関係者、関係組織・団体との調整を行い、企画を具体的活動に落とし込んで、2 学期の中間テストが終了した 10 月から 2 月までの 5 カ月間に文芸部の部活動の一環として月 1 回のペースで事業を実施した。

こうした中で、本校文芸部が主体となる活動だけでなく、「かけがわけんちく夜会」など NPO 法人かけがわランド・バンク主催事業、かけがわ街づくり株式会社との情報共有や会場の提供、掛川市都市政策課が推進する中心市街地活性化計画・実践モデル「かけがわ・フロント」（仮称）事業への参画、同じく掛川市産業労働政策部主催の「掛川まちなか勉強会」への参加、掛川市に在住する若者を中心とする有志が主催する「かけがわ百鬼夜行」、静岡理工科大学建築学科田井研究室の学生や掛川西高等学校の総合的探求の時間で「商店街の活性化」を主題とする生徒たちとも交流・意見交換する機会を得た。

また、愛知県豊橋市の「みんとしょ」建設現場視察の際の大豊商店街の街ブラや、東伊豆町稲取のシェアキッチン視察の際の静岡大学地域創造学環の学生との昼食会やフィールドワークは、生徒たちが日ごろの学校生活では味わえない異世代交流の機会となり、商店街の中の「世代間交流の場づくり」の大切さを肌で感じる貴重な経験となった。その集大成としてワークショップ「高校生・若者が商店街に集う」を今回の事業のメインに据えた。

高校生・若者が商店街の活性化にどうかかわることができるか？商店街の人たちが高校生・若者に何を期待しているのか？集客や収益、賑わいを演出するイベントではなく、日常の営みである社会生活、学校生活との両立の中で継続的に高校生ができる役割とは何なのか？提案だけに留まらず、自分たちが考えたことを具現化へとつなげる方法を、今回の事業を通じて学ぶことができた。

【活動プログラムを作成する際の視点（目標）】

- ①空き店舗等の情報を収集する（場を探す） complete
- ②賃貸料やリフォーム等にかかる費用について考える（初期費用） complete
- ③居場所の維持・管理について考える（居場所経営） complete
- ④商店街や市等が主催するイベントに参画する（体験活動）重点 complete
- ⑤居場所の利用ニーズを把握する（アンケートの作成・分析）重点 complete
- ⑥具体的居場所を確定する（報告書の作成） complete

【活動主体】

静岡県立掛川工業高等学校文芸部（部員 8 名）

加藤翔太、浅岡竜生、山中大成、伊藤光汰朗、太田拓斗、阿部隼人、林直生、山岸大晟

【文芸部のこれまでの実績・その他の活動】

（令和 4 年度）

- ・静岡県教育委員会外部講師派遣事業「文化の匠講座」全 15 回開催
- ・掛川市テーマ型市民活動チャレンジ事業「商店街の空き店舗を高校生の居場所に」
～令和 5 年 3 月に「事業成果報告書および提案書」を作成・報告～
- 第 1 回高校生が選ぶ掛川文学賞高校生選考委員選出
- ・第 3 回高久書店ほんわか俳句大賞教育長賞他受賞

（令和 5 年度）

- ・静岡県教育委員会外部講師派遣事業「文化の匠講座」全 16 回開催
- ・掛川市高校生高校生チャレンジ公募事業「商店街の空き店舗を高校生の居場所に」
（昨年度からの継続・本事業）
- ・葛川祭文芸部展で「文化の匠講座」「居場所づくり」の活動実績を展示
- ・第 2 回高校生が選ぶ掛川文学賞高校生選考委員選出
- ・第 4 回掛川ほんわか俳句大賞教育長賞他受賞

【協力組織・団体・個人】（掛川市は除く）

- ・NPO 法人かけがわランド・バンク（理事長 丸山 勲氏・副理事長 村松謙一氏）
- ・かけがわ街づくり株式会社（代表取締役 渡邊圭介氏）
- ・静岡理工科大学建築学科田井幹夫研究室（タイラボ）（田井幹夫准教授）
- ・合同会社湊庵／so-an（代表社員 荒武優希氏）
- ・静岡大学地域創造センター・地域創造学環稲取フィールドワークチーム（阿部耕也教授）
- ・豊橋駅前みんとしゅ館長 櫻田純一氏（愛知県豊橋市）
- ・大豊商店街理事長 黒野有一郎氏（愛知県豊橋市）
- ・島田掛川信用金庫地域創生部（副部長 斉藤奈津子氏）

【活動内容】（予備調査・打ち合わせ等を含む）

- 8月 1日 「チャレンジBASE なかまち」で所管課との打ち合わせ
（掛川市都市政策課住宅政策室住まい・あき家対策係 服部和敏係長）
- 8月 8日 かけがわまちづくり株式会社との情報共有
（代表取締役 渡邊圭介氏）
- 10月 8日 前橋市高校生学習室視察（予備調査）
（NPO 法人ネクストジェネレーション理事長 小高広大氏）
- 10月 20日 第1回かけがわけんちく夜会 2023
「松浦履物屋を拠点とした中心市街地再生計画プロジェクト」参加
- 10月 22日 愛知県豊橋市みんとしよ開館準備現場視察・大豊商店街散策
（豊橋駅前みんとしよ館長 櫻田純一氏）
- 10月 29日 掛川百鬼夜行（掛川百鬼夜行実行委員会）視察
（大日本報徳社「怪異物語創作コンテスト」表彰式・三の丸広場のイベント）
- 11月 3日 掛川工業高校文化祭（葛川祭）にて、文芸部展開催
（昨年度の「事業成果報告書および提案書」・本年度の取り組みを紹介）
- 11月 11日 中心市街地活性化計画・実践モデル「かけがわ・フロント」（仮称）
「お片付けボランティア」参加・掛川西高校生徒との情報共有
（NPO 法人かけがわランド・バンク理事長 丸山 勲氏）
- 11月 17日 ワークショップ「商店街に高校生・若者が集う」事前打ち合わせ 顧問
（大豊商店街理事長（一級建築士事務所建築クロノ代表） 黒野有一郎氏
豊橋駅前みんとしよ館長（株式会社桜田代表取締役） 櫻田純一氏
かけがわまちづくり株式会社代表取締役 渡邊圭介氏）
- 11月 25日 東伊豆町稲取「ダイロクキッチン」視察・静岡大学生と情報共有
（合同会社湊庵／so-an 代表社員 荒武優希氏
静岡大学地域創造教育センター長・地域創造学環 阿部耕也教授）
- 12月 17日 ワークショップ「商店街に高校生・若者が集う」開催（街なか再生会議室）
（高校生・大学生・商店街の方々・他商店街に関心がある方 17 名参加）
- 1月 25日 「内閣府地方創生 SDGs 官民連携優良事例」動画作成協力
（掛川市副市長・島田掛川信用金庫地域創生部副部長依頼）文芸部部長出演
- 2月 12日 「掛川まちなか勉強会」参加
（かけがわ街づくり株式会社・掛川市産業労働政策課主催）
- 2月 24日 郊外型リノベーション施設「上内田 BASE」視察
（NPO 法人かけがわランド・バンク理事長 丸山 勲氏）
- 2月 25日 中心市街地活性化計画・実践モデル「かけがわ・フロント」（仮称）
「お片付けボランティア」参加・静岡理工科大学建築学科学生と情報共有
- 3月 1日 居場所のイメージ図作成依頼（さんさい工房一級建築事務所 村松謙一氏）

【視察や活動を通じて感じたこと】

①愛知県豊橋市「豊橋駅前みんとしょ」視察（民設図書館の可能性を考える）

10月22日に豊橋市を生徒と訪れる。昨年訪れた焼津の私設図書館、みんなの図書館「さんかく」の影響を受け、豊橋駅前で金券ショップを3店舗経営するオーナーである桜田純一さんが1店舗を閉鎖・改装し、商店街の居場所として私設図書館開館の準備をしているというお話を聞いたからである。



訪れた日は、まさに改装中、経緯や構想を丁寧に説明していただいた。間口の狭い3階建ての建物で、1階が開架スペース、2階・3階が6～8畳程度の空間で、活用は未定だということ。

豊橋市の商店街の変遷を商店街の店主から直接、伺う機会をいたあき、その状況を打開するために「公共」スペースとして場を提供しようとしている桜田さんに、生徒は深く感銘を受けたようである。



お話のあと、豊橋水上ビルの大豊商店街、豊橋市まちなか図書館を見学した。ちょうど、昼刻にかかり、若者が多く集まっていて、とても賑わいのある商店街であるという印象を受けた。このことがワークショップ「高校生・若者が商店街に集う」の企画に繋がる。

3月16日に再訪。大学生を含めた多くの方々が私設図書館のオープンを待ち望み、開店準備の最終工事をワイワイと進めていた。令和6年3月末に「ひとなる図書館」としてオープンする。

②東伊豆町稲取「ダイロクキッチン」視察（シェアキッチンの可能性を考える）

11月25日に東伊豆町稲取を生徒と訪れる。昨年度に引き続き、リノベーション施設を軸に稲取のまちづくりに取り組んでいる合同会社湊庵／so-an 代表社員、荒武優希さんにお話を伺うためである。昨年度はコワーキングスペースの「EAST DOCK」でのお話であったが、今回はシェアキッチン「ダイロクキッチン」を見学。「食」を通じた居場所づくりの可能性を生徒と共有したいと考えたからである。



「ダイロクキッチン」は荒武さんが学生の頃、同級生数人で東伊豆町から依頼され手掛けた最初のリノベーション施設で、これを機会に東伊豆町との関わりが生まれる。彼の言葉の中で印象的だったのが、「地域の困りごとと自分の興味関心の交わった部分を仕事にする」。「リノベーション施設をただ改装するだけでなく、維持管理をしっかりおこない、そして利活用（運営）していくことが大切」。彼が大学院修了後、地域おこし協力隊として東伊豆町に赴任し、その後、稲取の地で合同会社湊庵／so-an を起業するに至る経緯を理解することができた。



どんな立派な施設（箱物）をつくっても、そこに人が介在していなければ居場所としての機能を果たすことができないのではないかと？安心安全で居心地のよい空間にはならないのではないかと？そんな想いを強くした視察であった。

午後からは稲取をフィールドワークとしている静岡大学地域創造学環の学生と合流、昼食会を催してもらうなど、食を通じて交流して、その後、稲取の街なかを散策した。

荒武さんは、現在、宿泊施設などを含めて5つのリノベーション施設の経営を担うとともに、伊豆稲取駅リニューアル事業にも参画するなど、東伊豆町の街づくりには欠かせない若者のリーダーとして地に根をおろして活動している。

③ワークショップ「高校生・若者が商店街に集う」主催（商店街への想いを共有する）

12月17日に掛川市商店街の一角、まちなか再生会議室でワークショップ「高校生・若者が商店街に集う」を開催した。企画にあたっては、東京杉並区の和田商店街の事例をもとにしたワークショップを計画していたが、10月の豊橋視察の際の大豊商店街の賑わい、若者をターゲットにしたコンセプトに共感して、櫻田さんに打診して、大豊商店街組合長の黒野有一郎さんを御紹介いただいた。黒野さんは一級建築士ということもあり、11月17日



に打ち合わせ会を設定し、掛川市にお越しいただき、商店街を視察していただくとともに、かけがわ街づくり株式会社、NPO法人かけがわランド・バンクとの打ち合わせにも十分に時間を割いていただいた。

当日は年末の慌ただしい中、午前・午後の時間設定であったが、高校生、大学生、商店街の方々、近隣市の職員・社会教育委員や報道機関に勤める方など多彩な17名が参加。講義のあとのふりかえりでは十分に意見交換をすることができた。



講師の黒野さんからは、首都圏と地方都市の街づくりの手法の違いを、高度成長期とは異なる人口減少期における行政の役割の変化から考察し、地方都市における新しい「公共」の在り方を御教示いただいた。商店街は個人経営者の集まりではある

が、多分に「公共性」を帯びていること、目先の収益確保や課題解決だけでなく、中長期的ビジョンを持って取り組むこと、そのためには、高校生、若者の視点、外部からの視点が大切であることを御助言していただいた。詳細は別紙「高校生・若者が商店街に集うふりかえり」を参照していただきたい。

④郊外型リノベーション施設「上内田 BASE」視察（商店街との接続を考える）

2月23日にかけがわランド・バンク理事長（(有)エフ・ベース代表取締役）丸山 勲さんに、上内田にある郊外型のリノベーション施設「上内田 BASE」を御案内いただいた。

自然豊かな掛川市郊外、上内田地区のキュウイフルーツカンントリーJapan に隣接する広い庭、裏山がある古民家を(有)エフ・ベースが手に入れ、改築を計画している施設である。庭にはサウナも設置してある。ここでは「WEEKENDERS@上内田BASE」と呼ばれる定例のイベントが毎月1回開催されており、子どもから大人までさまざまな属性の方が同じ作業をすることで打ち解け、交友を深める機会になっている。



高校生の現地参加は昨年の2月に引き続き2回目である。今回の目的は、昨年度の課題にもあげた、「商店街にある既存の施設や組織、郊外拠点との連携」の一環として、居場所のネットワーク、商店街の居場所と郊外の居場所の連結の可能性を考えることである。



商店街で知り合った高校生・若者がより親密な信頼関係を構築するためには「活動」が不可欠である。また、幼児や子育て世代、シニア世代など世代を越えた人々とも同じ「活動」をすることで会話が生まれ、世代を越えた交流が生まれる。この関係性が商店街の居場所で還流できれば、週末に限らず、平日放課後に様々な世代の方が容易に商店街を訪れ、良き相談相手として居場所のサポートに関わってくれるのではと考えている。

⑤掛川百鬼夜行第二夜視察（商店街の賑わいを体感する）

10月29日に掛川百鬼夜行実行委員会主催の掛川版ハロウィンイベント「掛川百鬼夜行第二夜」を視察した。この催しは昨年から有志が集まり実施しているもので、当日の仮装イベントの他にも怪異物語創作イベント「掛川百鬼紀行第二幕」（昨年から）、怪異イラスト創作コンテスト「掛川百鬼絵巻第一幕」（今年新設）からなり、2年目にして多くの若者から支持される掛川の秋の風物詩として定着した感がある。昨年度、この事業の提案者で実行委員でもある株式会社あらまほし代表取締役の戸田佑也さんから、「百鬼夜行。街中を舞台にした市民参加型イベントのふりかえり」と題してお話を聞く機会を得ており、今年は企画の段階から関りたいと思いながら、日程の調整が上手くいかず、視察だけに留まったものである。



当日は大日本報徳社で開催された「掛川百鬼紀行」「掛川百鬼絵巻」の表彰式、和太鼓演衆、寄席など大日本報徳社ステージを中心に視察した。文芸部の部員だけあって、創作活動の表彰式には強く興味を持った様子うかがえた。報徳社ステージ終了後は、三の丸ステージ、そして中町商店街・連尺商店街を歩きながら帰路についた。

イベントは非日常であり高揚感が高まり、達成感を感じることができる大切なものであ

る。その反面、周到な準備と資金、運営スタッフ（人的資源）が必要で、かなりの労力を費やすことから、高校生では主体性を発揮して本格的に事業に参画するための時間的な制約が多く、補助的な役割しか与えてもらえないことが多い。

まずはイベント会場にブースを確保して、日ごろの成果物を出展する場にするなど、日常生活とのバランスを取りながら、大人との関りを地道に構築していくことが大切だと感じた。また、日ごろから主催関係者とコミュニケーションをとる必要性からも日常生活の中で居場所、作戦会議の場を商店街の中に存在することの必要性を認識した。

⑥中心市街地活性化計画・実践モデル「かけがわ・フロント」（仮称）関係事業への参加 （活動を通じて具体的な居場所をイメージする）

NPO 法人かけがわランド・バンクには、昨年度からこの事業に協力いただいている。そうしたことから貴団体の主催事業である「かけがわけんちく夜会 2023」全5回に今年も参加させていただいた。全5回のプログラムは以下のとおりである。

- | | | | |
|-----|------------------------------------|----------------|-----------------|
| 第1回 | 10月20日「村松履物屋を拠点とした中心市街地再生計画プロジェクト」 | | |
| | | | （静岡理科大学田井幹夫研究室） |
| 第2回 | 11月17日「ストーリーから都市を耕す」 | ANP/PAM アンパン | 伊藤 孝仁氏 |
| 第3回 | 12月15日「「参加」をつくる仕事。」 | LifeWork | 内海 慎一氏 |
| 第4回 | 1月26日「脱酸素社会の建築」 | みかんぐみ | 竹内 昌義氏 |
| 第5回 | 2月22日「二拠点生活の視点からその土地の「本物」を考える」 | | |
| | | NPO 法人南房総パブリック | 馬場 未織氏 |

5回とも建築士の視点からまちづくりにアプローチしたもので、全国の先進事例を紹介していただくとともに、設計思想に「人との繋がり」、「交流の場としての機能」を重視していることが理解できた。その中でも、掛川市の商店街の空き店舗をリノベーションすることにより、市街地再生計画プロジェクトとして、静岡理科大学の学生が提案する活用事例は、本事業の昨年度の課題の1つでもあった「具体的居場所の確保、リノベーションの手法」の解決に示唆を与えてくれるものであった。「チャレンジBASEなかまち」とともに、具体的イメージを描きながら事業を進める上で大変ありがたい提案であった。



実際に高校生がこの事業に参加する機会をいただくことができたのは、お片付けボランティアである。全4回のうち、1月11日と2月25日に2回参加することができた。

作業を通じて静岡理科大学田井幹夫研究室の学生、掛川西高等学校の総合的探求の時間で商店街の活性化に取り組む生徒との交流できたことの意義も大きい。



このプロジェクトの一環として、島田掛川信用金庫の地域創生部との繋がりも生まれた。具体的には「内閣府地方創生 SDGs 官民連携優良事例」動画作成に生徒（文芸部部長）が出演の機会を得たことである。これは、昨年10月6日にNPO法人かけがわランド・バンクと島田掛川信用金庫が「空き家・空き店舗対策に関する協定」を締結したことによるが、商店街の空き店舗を高校生の居場所にする事業が、絵に描いた餅のような提案だけに終わらず、地域課題として官民挙げて取り組む事業としての現実性を帯びてきたことを感じている。

番外編① 群馬県前橋市「前橋高校生自習室」視察（自習スペースの可能性を考える）

10月7日～9日。2泊3日の行程で群馬県を訪れた際に、NPO法人NextGenerationが運営を委託されている「前橋市高校生学習室」を視察した。掛川市でも経済的事情等で学習塾に通うことが難しい高校生が、交通の利便性がよい商店街に自習ができる場所を確保したいという要望が強いことを行政担当者から聞いていたからである。

駅前の大型ショッピングセンターが撤退したあとのフロアー（延床面積 360.07 m²）を学習スペース（70 席程度）、セミナールーム（40 席程度）、ミーティングルーム（10 席程度）に分割することで、高校生の多様なニーズに応えている。年間の開室日は319日（平日開室日は16時～21時、休日開室日は9時～20時、長期休業中など特別開室日は13時から21時）、利用者は登録制で令和5年度は前橋市内の高等学校を中心に2,203人（累計3,406人）の登録がある。事業としては①自主学習の場の提供、②ボランティアやイベント情報の発信、③市内情報等を掲載した刊行物の発行、④利用者交流イベントの開催、⑤将来設計支援イベントの開催、⑥ニーズに合わせた各種ワークショップ、⑦大学生などによる個別相談など、



高校生同士、あるいは多世代との交流を通じて、多様性を育み、次世代を担う人材を育成することを目的として実施されている。

運営団体であるNPO法人NextGenerationは2016年高校生理事6人でスタートした団体で2017年に法人登記、職員12名（常勤1名）、スタッフ（大学生以上）30名、ボランティア（高校生）16名で、高校生学習室運営事業の他、生活困窮家庭の生徒やひとり親家庭の生徒の学習支援、高齢者へのIT支援事業、不安をかかえる女性へのつながりサポート相談などの支援事業を行っている。

日常的に学習室をして利用している生徒がボランティアとして事業に関わったり、卒業後はスタッフをして事業運営や高校生のメンターとして相談相手になったりと高校生・若者のコミュニティ形成の場となっていることが感じられた。こうした交流スペースがあることによって、高校生の視点から前橋の魅力を情報発信する「まちなか紹介パンフレット」、「まえばしまちなかかるた」などの刊行物が生まれている。

**番外編② 掛川街づくり株式会社・掛川市産業労働政策課主催「掛川まちなか勉強会」参加
（行政の支援の重要性（社会実験という手法を通じて）～愛媛県松山市の事例から～）**

2月12日の開催された「掛川まちなか勉強会」に参加した際に、基調講演でネイバーズ株式会社代表取締役の尾崎信さんから紹介された愛媛県松山市の事例が大変興味深く、官民連携の中心市街地賑わい再生社会実験事業「もぶるテラス・みんなのひろば」を中心に感想を簡潔に記しておく。

まず目を引いたのは、運営主体が松山アーバンデザインセンター（UDCM）という「公・民・学」が連携するまちづくり組織が中心市街地に拠点施設を構え、ハード面ばかりでなく、まちづくりの担い手育成や地域デザインプログラム等のソフト面からもまちづくりを推進している点である。その拠点施設の階下、隣接する場所に社会実験として設置されたのが「もぶるテラス・みんなのひろば」である。



2019年に社会実験は終了し、現在、松山アーバンデザインセンターは拠点を移しているが、移転先にも「もぶるラウンジ」を設置して市民に開放していることから、商店街の中、あるいは周辺に公共スペース（市民が活動や話し合いをする場）がまちづくりには不可欠なことがうかがえる。



次に官民学の連携組織の中での、行政の役割（やるべきこと）、民間の役割（やるべきこと）、研究機関の役割（やるべきこと）の責任分担が明確になることではじめて連携が成り立つことから、商店街の中に公共スペースを確保する際に行政が担うべき役割は、とても重要になる。とくに収益や集客数といった定量的評価には馴染まない平日の放課後を中心とした高校生の居場所づくりには、社会実験事業という手法は、きわめて堅実で、現実的な手法であると考えている。

こうした社会実験事業には運営母体とその事業を評価する指標、組織の存在が不可欠である。運営母体となる組織をどうするか？個人なのか？任意団体なのか？法人格が必要なのか？その組織を所管する課はどこが担うべきなのか？商店街の中に、持続可能な高校生の居場所をつくるためには、官民学の連携の中で、きっちりと行政課題（少子高齢化対策？産業・観光振興？住環境整備？学習支援？子育て支援？貧困対策？市民協働振興？）として位置づけ、行政がサポートする体制の構築が必要である。

【結びにかえて】

昨年度の「事業成果報告書および提案書」で今後の課題と展望として、①具体的居場所の確保、リノベーションの手法。②運営方法の検討、スタッフの確保。③商店街にある既存の施設や組織、郊外拠点との連携の3点を指摘した。

今年度は、その点を意識しながら事業を企画し実施してきた。掛川市やNPO法人かけがわ

ランド・バンク、かけがわ街づくり株式会社の主催事業に参加するなど、連携をとりながら事業を進めていったことの意義は大きい。こうしたことが、中心市街地活性化計画・実践モデル「かけがわ・フロント」（仮称）への高校生の参画に繋がっていき、商店街に高校生の居場所をつくることの現実性を一層明確にすることができた。

また、ワークショップ「高校生・若者が商店街に集う」を開催することにより、商店街の方々、商店街に興味を持っている方々と高校生・若者とが、お互いに意見交換する機会も設定できた。高校生にとっては商店街の方々のニュースを把握することにつながり、また大人たちにとっても高校生の本音を聞く機会にもなった。こうした対話の中から、高校生が商店街の活性化を自らの問題として捉え、主体性を持って課題解決をしていく態度が醸成されていくと考えている。商店街の方々にとっても、長期的な展望の中で高校生を商店街に受け入れていく体制が構築されていくと信じている。

高校生の居場所の用途と運営については、①棚貸し図書館、②自習スペース、③シェアキッチンの可能性を、視察を通じて検討してきた。公民館や図書館等の公共施設や、ポートカケガワ等の民間施設とのすみ分けが大切であり、シェアキッチンの場合は設備投資や衛生管理に課題がある。

高校生・若者を主体とした「ユースカウンスル」（若者協議会）の活動拠点（ユースセンター）としての活用も視野に入れるおくことも重要である。手狭であれば、駅前分室として機能の一部を特化した活用も考えられる。スペースの問題は、郊外の施設とのネットワークの構築によって解消できるのではないだろうか？いずれにしても、ユースワーカーの役割を果たす、高校生を見守り、時として相談相手となる人材の配置が不可欠であり、行政の支援が必要である。

例えば、平日（16:00～21:00）は学習室スペースとして中高生に限定して利用（登録制）してもらい、土日祝日（9:00～17:00）は時間帯によっては、学習室スペースとともに、交流スペースとして、高校生主体の活動（情報誌の編集作業や未就学児や子育て世代・シニア世代など多世代交流のイベント等を企画するための作戦会議、プチ講演会やワークショップの開催）できる場として活用してはどうだろうか？詳細については、運営を担う若者たちの自主性に委ねたい。

（文責 静岡県立掛川工業高等学校文芸部顧問 杉山直康）

【参考資料・URL】

（みんとしょネットワーク）

<https://sancacu.org/library>

（伊豆稲取駅リニューアルプロジェクト）

https://camp-fire.jp/projects/view/727742?utm_campaign=cp_share_c_msg_projects_show

（上内田BASE）

<https://fbase.jp/kamiuchida-base-start/>

（掛川百鬼夜行）

<https://kakegawa-100kiyako.studio.site/>

(前橋市高校生学習室)

<https://maebashi-studyroom.jp/>

(松山アーバンデザインセンター・もぶるラウンジ)

<https://udcm.jp/moburulounge/>

(地域創生 SDG s 官民連携優良事例動画)

https://skp3449-my.sharepoint.com/personal/ishibashi_e_sk-partners_co_jp/_layouts/15/onedrive.aspx?id=%2Fpersonal%2Fishibashi%5Fe%5Fsk%2Dpartners%5Fco%5Fjp%2FDocuments%2F%E3%81%BF%E3%82%93%E3%81%AA%E3%81%A6%E3%82%99%E5%89%B5%E3%82%8A%E3%83%BB%E9%9B%86%E3%81%84%E3%83%BB%E6%A5%BD%E3%81%97%E3%81%8F%E8%B2%B7%E3%81%84%E7%89%A9%E3%80%8C%E3%83%AF%E3%82%AF%E3%83%AF%E3%82%AF%E3%81%99%E3%82%8B%E5%95%86%E5%BA%97%E8%A1%97%E3%80%8D&ga=1

「高校生・若者が商店街に集う」ふりかえり

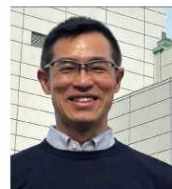


日時 令和5年12月17日(日)
10:00～15:00 (昼休憩 11:40～12:50)

会場 街なか再生 会議室 〒436-0093
掛川市連雀 1-14
連雀ニューセンタービル 2階
☎ 0537-61-1151

ゲスト

大豊商店街
理事長
(一般建築士事務所 建築クロノ 代表)
黒野有一郎氏



豊橋駅前
みんとしょ館長
(株式会社桜田 代表取締役)
櫻田純一氏

9:45～10:00 受付
10:00～10:10 オープニング
10:10～11:20 講義Ⅰ「豊橋水上ビル・大豊商店街のとりくみ」
11:20～11:30 質疑応答・アイスブレイク
11:40～12:50 昼食・昼休み ※希望者は掛川市商店街探索ツアー
12:50～13:20 講義Ⅱ「商店街の中に居場所をつくる」
13:30～14:50 グループワーク「商店街の未来ビジョンを共有する」
14:50～15:00 クロージング

主催 静岡県立掛川工業高等学校 文芸部 他有志
(令和5年度掛川市高校生チャレンジ事業受託団体)

協力 掛川市(生涯学習協働推進課・都市政策課)
かけがわ街づくり株式会社
NPO 法人かけがわランド・バンク
静岡県理工科大学 建築学科 田井幹夫研究室

● 問い合わせ・申込み ●

静岡県立掛川工業高等学校 (杉山)

☎ 0537-22-7255

✉ kakegawa-th@edu.pref.shizuoka.jp



こちらのQRコードから
フォームにてお申し込みできます

講義「豊橋水上ビル・大豊商店街のとりくみ」のふりかえりです。感じたこと・考えたことがありましたら御記入ください。

- 商店街の魅力は歩いてみなければ。中高生の居場所づくりが、商店街の未来につながる。
- 大学のゼミで論文を読む中で商店街を「アートの街」とする活動や、商店街の中で周囲の人に呼び掛けて商店街の活性化や新規店舗に取り組む人の事例を多くみてきましたが、実際に同様の事例に取り組んできた黒野さんの話を聞く中で、実感がわき、より身近に感じました。また、話の中で高校生が消費者ではないと考えていたという話があり、改めなければならないとされていましたが、私自身高校生、若者、子どもたちはお金を使わない、ただの通行人だと考えていることに気づきました。自分の認識自体を問うべきだと思います。
- 建築の専門的知識を武器に、鉄筋コンクリート製建築物の耐用年数が 80 年であることを踏まえつつ、老朽化したビルでの 20 年後の経営のビジョンを語ったことに驚きました。また、雨の日商店会、DAIHOU ジャーナルの発行、都市型アートイベントの開催等、意欲的な取組に感心しました。
- 大変参考になりました。特に事を仕掛けるタイミングに行政の話がでなかったところ、あくまで「メインは民間で行政はサポート」のスタンスを感じ、今掛川に一番必要なことと感じました。
- 当事者としての覚悟、思い切った発想、地道な努力、たくさんのことに共感できました。
- 水上ビル、大豊商店街初めて知りました。もともと住んでいる方と外からいらした方の相乗効果で発展した商店街ということに関心をもちました。コンクリートの耐久年数もあり『終わり』を考えることを悲観的にならず、前向きに考える事は大切だなと思いました。
- 実際に住んでいる人の目線でお話をしてくださったのがとても良かった。
- 楽しむコトとこだわるコト、正しい知識を得る事、その道の専門家を巻き込む事の重要性を、大事にして活動していても理解されないことの方が多いので。励まされました。
- 普段は聞けないタイプの話聞いて貴重だった。
- 様々なことに通じる話しでした。
- 信用されること、関係性を築くこと。
- 当たり前のことですが、外に出ることがいかに大切か再認識しました。

講義「商店街に中に居場所をつくる」のふりかえりです。感じたこと・考えたことがありましたら御記入ください。

- 趣味の範囲の集まりでも、まずは場所の提供と周知から。
- 「みんとしょ」は焼津を始め各地で行われており、私自身もいつか行ってみたいと思っていました。また、オーナー制度で採算が取れている等、お金の問題も知ることができたため貴重な体験となりました。ただ、みんなの図書館としてコミュニティを作り上げていましたが、その背景にあるものは図書館であることだけが必要な事項ではなく、図書館や制度などの部分を工夫したら違う方法（例えばカフェなど）でも再現でき得るのではないかと考えます。
- 月に2000円出しても自分の書架を置きたいという意識の背後には、人と深いところでは出会いたいという願いがあるという分析はそのとおり、と思いました。
- 公の延長線上のような場所というものをもう少し考えて見たいと思った。
- 自分自身も商店街にみんとしょを作ろうと考えているので、興味深く聞くことができました。
- 桜田さんのみんとしょを作る動機の部分が、自分自身と似ていたため、特に参考になりました。
- 焼津にモデルがあったとは知りませんでした。今度行ってみます。また、掛川においては高久書店さんが似たサービスを行っていると思うので、例えば本に限らない「みんなの遊び場」的なスペースを作るのも面白いと思った。
- 経済を自立させつつ、商店を小さくでも持続させることは、とても大切だと思いました。シャッターはやはり開けなければ、始まらない。
- 「みんとしょ」が各地で広まっていることは知っていましたが、どこかフランチャイズのようなイメージを持っていました。
- 今日の講義を聞いて、みんとしょの枠組みを使ってやりたいことがそれぞれ違うことに気づきました。豊橋の商店街がこれからどうなっていくのか楽しみです"
- 「居場所」とは、個人の欲するものやこと、人が揃っていて、「自分の想いを満たしてくれるところ」なのだろうと感じました。
- 様々な人と交流がはかれたり、様々な情報が得られたり、体験できたりする。
- 街なかや商店街はそんな場所でありたいと思い日々活動しています。いろんな年代の方々が関わってくれることで、それぞれに居場所を見つけて活用してくれるといい。
- 新陳代謝をはかりながらも巡り巡って、遠くに暮らすようになっても思いを馳せる場所であり、郷土愛や誇りが生まれる場所であり、そしてまた懐かしく帰って来られる場所であれば素敵です。

GW「商店街の未来ビジョンを共有する」のふりかえりです。感じたこと・考えたことがありましたら御記入ください。

- 最先端の社会作りは心に残りました。東京はさいご。
- 大学生として若者とされることが多々ありますが、実際に高校生の話を聞いたり、商店街の中に居る方や市外・県外からはどのようにとらえられるかを知ったりすることができました。なんとなく感じていた問題意識であっても言語化することで違う方向に考えることができるため、今後もこのようなかたちでさまざまな人と議論を重ねていきたいです。また、他地域であっても同様の課題を抱えていることもあり、大学でのフィールドワークに活用していきたいです。
- 高校生、大学生の参加、隠岐の島から南アルプス市に転住された方などとお話することができ嬉しく思いました。高校生は場所代にお金を使っていました。
- 若い学生さんから実際に商店街で活躍している方まで、様々な意見を聞けたのが収穫でした。
- とても皆さんやる気があって、大変興味深く話に参加させていただきました。1点気になったのは、やはりすべてにおいて「行政に依存する」動きが多いように感じました。（「行政が〇〇をやってくれない」等）大豊商店街のように「自分たちでやって市役所に手助けしてもらおう」という考え方が浸透したら良いなと感じました。
- みんとしよのノウハウをしっかりと押さえつつ、所有するビルや地域の状況を冷静に把握しているところが感心しました。誠実な話ぶりがとても印象的でした。
- 現役の高校生と同じテーブルを囲めたのがとても意義のあることだと感じました。
- 高校生は内容が難しいと感じていたようですが、彼らがワクワクできるような、主体的に発言したくなるようなグループワークの機会をこれから増やしていけるといいと思いました。
- いろんな立場のいろんな方が、いろんな想いを持ってまちづくりに関わろうと考えていることがわかりました。商店街の在り方は、誰の何のために存在するのが1番楽しいのか(美しいのか)、また機会があれば異業種の方たちとお話したいです。
- 日本各地にある学生の居場所や学生の想いを知りたくなりました。
- 若い世代でも考えてくれる子が居るんだ…ということ、郊外にお住まいの方でも問題意識を持って街なかを見てくれてる方もいるんだ…とわかり嬉しかった。
それでもやはり交流が無いことで、住んでる人の思いや、現状が正しく伝わっていないことは残念に思うし、折角の良い意見にも行き違いが生じるので勿体無く感じた。

全体を通じてのふりかえりです。参加していかがでしたか？今のお気持ちをお聞かせください。

- とても充実した時間、街なかの状況も知りました。
- 大学でのフィールドワークや研究にあたって改めて考える大変重要な機会になりました。私自身フィールドワークの他に世代を超えて様々な人の交流が必要だと思い「クッキー会」というイベントを開催したこともあり、今回の講義や話し合いを通じて問題意識や考え方、周囲の人がどう考えているのか認識することができました。高校生とかかわることができるのは大学生としても貴重な体験になりました。今後も続けていってほしいとともに、積極的に参加させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。
- 掛川の商店街の問題が、よく分かりました。
- 私は、他の地域から移住して来たので、地元の方の気持ちはわからないのですが、今まで暮らしていて感じたのは、「自分達の地域は自分たちで守りたい」「地元の人を大切にする」そんな地域性を感じます。是非、他人ごとと思わずに、再生に取り組んでもらったらいいなと思いました。遠方で暮らしている掛川出身の方も、見ていると思います。帰りたいと思うように、がんばってもらいたいです。"
- とても良い企画だと思いました。高校生の学びと成長、とても楽しみです。
- 様々な方と議論を重ねることが出来て面白かった。
- 何とかして現状を良くしようという人たちが集まっていたので、とても刺激を受けました。
- また、同様の機会があれば是非！！
- 小さなことの積み重ね。できることから行動に。一人じゃなく、仲間と共に。いつも感じていることの復習ができました。
- 商店街と関わる上で、自分の立場でできることは何か考えるきっかけになりました。
自分の想いだけでは上手くいかないのがコミュニティの難しいところだと常々感じています。
- 自分にとって心地よい関わり方を見つけていければと思いました
- そこに行くと楽しい、おもしろい、と気持ちが満たされる商店街ができれば、きっと街は明るく元気になりますね。そうなるかどうかは、その土地に根付いている風習や文化もあると考えています。掛川の商店街をどう考えるのかは、広い世代の方々とお話しして行く必要がありそうですね。若い世代がもっと、地元を自慢できるような街になると良いなと思います。
- グラフィックレコーディングをさせていただき、ありがとうございました。居場所について考える機会がなかったので、お話を聞けて良かったです。
- 掛川の街づくり、この頃の状況から半ば諦めかけていたところがあった分、少し前向きに考えるきっかけになった…かなと感じる。今後とも引き続きよろしくお願いします。

